

にじ色のランプシェード

長尾 宏一

1 題材について

LED ライトの周りにケント紙を構成して、光を透過させたり影をつくったりする明かりのオブジェをつくる表現活動です。

ここでの活動のねらいは、次の通りです。

- ①カッターナイフの扱いに慣れ、工夫して創造的につくる。
- ②つくり、鑑賞しながら考え、発想・構想を広げて表現する。
- ③光と影の美しさを味わいながらつくり、感性を育む。



2 題材の展開と指導のポイント

(1) 鑑賞から表現へ

色が様々に変化する LED ライトの光がケント紙を透過する美しさを鑑賞することから活動を始めます。鑑賞活動から始めるのは、ケント紙の切り方や構成によって美しい光と影ができることを知るとともに、自分もつくってみたいと思う意欲を引き出すことをねらっています。また、鑑賞を通して、基本的なつくり方を把握できるようにします。



(2) つくり方の主たる手順とカッターナイフの扱い方を知る

つくり方の主たる手順とカッターナイフの扱い方をやって見せます。また、接着剤による接着の仕方も指導しておきます。

材料や活動への子どもたちの興味・関心を引き出すとともに、道具の使い方や安全な扱い方をしっかり伝えます。また、ケント紙という材料とカッターナイフという道具をいろいろと試しながら思い切り活動できるように導入を工夫します。

○LEDライトの形を台紙になぞって、カッターナイフで切り取るようにします。

- 円を切る時は、紙を回して切ることを指導します。
- 試し切りをする紙を渡し、カッターナイフの扱い方やいろいろな形に切ることを試すようにします。
- どんな構造にするか、基本的な形を考えて、活動を始めます。
- 組み立ててから切ることはできないので、組み立て後を想像しながら平らな紙の状態で切ることをしっかり理解できるようにします。
- 光を通す穴は、大きすぎたり紙の端ぎりぎりまで切ったりすると、組み立てるのが難しくなるので、注意するように指導します。
- 同じ形を繰り返してできる造形美にも気付くことができるようにします。

(3) おおよその構想をもとに表現と鑑賞を繰り返しながらつくる

ケント紙をどのように切り、どのように構成するか、一人一人が発想しながら表現することを大事にします。初めに大まかな構想を練りますが、つくっては自分の作品を鑑賞することを絶えず繰り返して新たな発想を広げていくことを大切にします。そうすることによって発想・構想する能力を育てることができると考えます。切り方や接着の仕方もいろいろ試し、そこで発見したことを生かして作品をつくることによって、自ら発見したり工夫したりする能力を高めることができます。

また、つくっている途中、暗い場所でLEDライトの光をあてて作品の様子を鑑賞して確かめることは大事な活動です。その光と影の様子から、さらにどのようにするか考えてつくることにより、創造性豊かな作品になることが期待できます。

このように、この題材では、子どもたちが考えたり、判断したり、表現を工夫したりすることを楽しみながら、自分なりの表現を追求することを大事にしたいと願います。

3 この活動とテーマについて

この活動では、①ランプのデザインや光と影の表現を考え表すこと、②カッターナイフの扱いに慣れて使い方を工夫すること、③光と影のよさや美しさを感じ取ることが、常に関連しながら表現が展開されます。

そこでは、子ども自らが思考し、判断し、表現するという主体的な活動が求められます。また、活動する中で技能が習熟し、子ども自らがその扱いを工夫するようになります。そして、つくる過程に

において自分の表現を見て感じ取ったり、友だちと作品について感じたことを話し合ったりして、次の発想や構想、つくり方の工夫へと繋げて行き、深い学びとなるのです。

新学習指導要領は、このように活動の中での資質・能力の構造を明確にしてそれを育てることを示しています。









